

事務事業チェックシート

事務事業No
9639

事業名
青少年国際交流センター管理運営事業

[事業基本情報]

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	2	郷土を愛するふるさと教育の推進

事業区分(1)	事業経費		管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	教育費		
	項	教育総務費		
	目	青少年国際交流センター費		
	大事業	青少年国際交流センター事業		
	中事業	青少年国際交流センター管理運営事業		

事業種別	継続		関連個別計画	教育振興基本計画		
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	青少年課	楠山 耕司 435-1235
事業実施の根拠法令	和歌山市立青少年国際交流センター条例		関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	<p>1. 少年に自然環境の中での集団宿泊生活等を通じて自然の探求その他の活動を行わせることにより、少年の情操や社会性を豊かにし、少年の健全育成を図ること。</p> <p>2. 青年が自然の中での集団宿泊生活等を通じて生涯学習活動を行い、自己の人格を磨き、豊かな生活を営めるようにすること。</p>		<p>老朽化した少年自然の家をリニューアルし、利用対象者を従来の小・中学生から、利用者の枠を拡大し施設の有効活用を図るとともに、自然体験活動、生涯学習活動及び国際交流活動に取り組む場所を提供する。</p>			
事業内容	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	
		青少年国際交流センターの管理運営。	青少年国際交流センターの管理運営。	青少年国際交流センターの管理運営。		

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	0	0	1,324	21,568	70,097	78,429	0	0	0	0
伸び率(%)	0%	0%	0%	0%	5,194.3%	263.6%	△100%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	0	0	10,390	10,470	10,551	10,068	10,551	0	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	10,390	10,470	10,551	10,068	10,551	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	1,065	7,837	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	0	0	1,324	20,503	62,260	78,429	0	0	0	0
所要人数(人)	正規職員	0.00	0.00	1.30	1.31	1.31	1.25	1.31	0.00	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	31年度は指定管理料 69,100千円 (30年度は指定管理者を公募し9月補正予算のため決算が予算より増加)									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
開所日数		日	目標値		97	316	316	
			実績値		86	316		
			達成度(%)	%	89%	100%	%	%
受入日数		日	目標値		39	126	126	
			実績値		46	126		
			達成度(%)	%	118%	100%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>長年「少年自然の家」として親しまれてきた施設を、平成30年12月から「青少年国際交流センター」としてリニューアルオープンさせた。従来からの小中学生の利用に加え、国際交流活動やスポーツ合宿、文化・芸術活動などを行う全ての世代の団体の方が利用できる施設とした。施設の管理・運営を指定管理者に行わせることとした。</p>
見直し・改善内容	<p>施設の運営・管理を指定管理者に行わせることにした。</p>